

小学生対象陸上競技クラブの種類別活動の実態

第20回全国小学生陸上競技交流大会(2004年)指導者への調査分析

- 木村一彦¹⁾ 梶原洋子²⁾ 伊藤宏³⁾ 松田移子⁴⁾ 阿保雅行⁵⁾ 雨宮輝也⁶⁾
小野伸一郎⁷⁾ 高瀬博⁸⁾ 大畑好美⁹⁾ 井筒紫乃¹⁰⁾ 豊田則成¹¹⁾ 米谷正造¹²⁾
- 1) 川崎医療福祉大学 2) 文教大学 3) 静岡大学 4) 茅ヶ崎FC 5) 東京外語大学
6) 帝京国際大学 7) 舞鶴高専 8) 関東学園大学 9) 森永製菓 10) 日本大学
11) びわこ成蹊大学 12) 川崎医療福祉大学

I. 目的

陸上競技の普及発展の為には、小学校の頃から児童にこの競技の特性に触れてもらい興味関心を呼び起こし、基礎的な技術の付与と共に将来に向けた継続を可能にするようなトレーニングの実施が求められる。今日わが国の場合、このような場としての小学校対象の陸上競技クラブは各学校単位の学校体育の延長にあるクラブ、あるいは主に学校区単位のスポーツ少年団としてのクラブ、また地域を単位とした総合型クラブを含む地域スポーツクラブに大別される。

一方日本陸上競技連盟は「研修を通してグループ生活の中での、よい友達づくりやマナーの養成、あらゆるスポーツの基本とされる陸上競技の技能の習得、我が国のスポーツの底辺の拡大をはかり小学生期の児童の健全なる心身育成の一端とする小学生陸上競技指導者の研鑽のための研修」として全国小学生陸上競技交流大会を実施している。各都道府県陸上競技協会の下での予選会を経て、男女4×100mリレー各5名、個人種目10種目(男子6年100m、女子6年100m、男子5年100m、女子5年100m、男子80mハードル、女子80mハードル、男子走幅跳、女子走幅跳、男子走高跳、女子走高跳)各1名、計20名、並びに総監督を含む指導者4名が本大会に参加している。

日本陸上競技連盟・普及委員会・研究調査部は第20回大会(2004年7月23日(金)～25日(日))に参加した指導者を対象に日頃の指導活動についての意識と実態について調査を実施した。これまでも過去の本大会参加指導者に関する岡野ら(1995)、

片瓜ら(1997)や財団法人日本陸上競技連盟普及委員会(2002)の調査報告などがあるが、全体的な指導実態の検討であり、小学校の陸上競技クラブ、スポーツ少年団、地域スポーツクラブ別に検討したものはなかった。本報告はそこから得たデータの中から今日のわが国の小学生を対象とする三種類の陸上競技クラブの活動がどのようになっているかを知り、今後の陸上競技の普及発展の資料とすることを目的に分析検討するものである。

II. 方法

47都道府県の指導者329名を対象に大会二日目(2004年7月23日)の研修会の会場入口で調査用紙を配布し、退室時に回収する無記名、自己記入質問紙法による集合調査法調査を実施した。回収数は190であった。このうち無記入の多かった2名を除く188名を対象とした。(有効回収率57.75%)分析にはSPSSを用い、主に三種のクラブ別クロス集計(χ^2 検定)を行った。

調査項目は資料に示す。

III. 結果

1. 分析の対象について

188名の今回参加の立場と日頃の指導の有無についてみたものが表1である。立場は別にして日頃指導しているものは160名であった。さらにこの160名の指導者の所属クラブをみたものが表2である。「学校のクラブ・部活動」「スポーツ少年団」「地域スポーツクラブ(含む総合型)」「その他」を選択肢

表1 今回参加の立場と日常的指導の有無 (%)

| | 日常的指導有 | 日常的指導無 | その他 | 無記入 | 計 |
|-----|------------|----------|---------|---------|--------------------|
| 監督 | 29(74.4) | 5(12.8) | 4(7.7) | 1(2.6) | 39(100.0) (20.7) |
| コーチ | 125(89.9) | 7(5.0) | 5(3.5) | 2(1.4) | 115(100.0) (73.9) |
| その他 | 4(66.7) | 2(33.3) | 0(0.0) | 0(0.0) | 6(100.0) (3.2) |
| 無記入 | 2(50.0) | 2(50.0) | 0(0.0) | 0(0.0) | 4(100.0) (2.1) |
| 計 | 160(85.1) | 16(8.5) | 9(4.8) | 3(1.6) | 188(100.0) (100.0) |

表2 所属クラブの種類 (%)

| 学校のクラブ・部活動 | スポーツ少年団 | 地域スポーツクラブ (含む総合型) | その他 | 2つ以上 | 無記入 | 計 |
|------------|-----------|-------------------|----------|----------|---------|------------|
| 39(24.4) | 30(18.8) | 63(39.4) | 12(7.5) | 10(6.3) | 6(3.8) | 160(100.0) |

としてあげ、回答を得た。全体の82.6%にあたる対象者が、単一的に「学校のクラブ・部活動」39名(24.4%)「スポーツ少年団」30名(18.8%)「地域スポーツクラブ(含む総合型)」63名(39.4%)を選択した。「その他」はこれらの複数を選択していた。

そこで、今回の分析当たっては、表1で示した中で「日常的に指導している」160名のうち、表2で「単一的に指導している」の条件をもつ132名を対象に分析することとした。

1) 参加指導者の性別と年齢

性別は「男性」108名(81.8%)「女性」24名(18.2%)であり、所属クラブ種類別に有意な差は認められなかった。

クラブ別年齢階層については、「学校のクラブ・部活動」は「30代」22名(44.0%)「40代」19名(38.0%)が多く、これに対して「スポーツ少年団」は「40代」11名(38.2%)に次いで「60代以上」7名(20.6%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は「40代」25名(37.9%)に次いで「30代」19名(28.85%)、「50代」12名(18.2%)と年齢に幅がみられた。

2) 参加指導者の職業

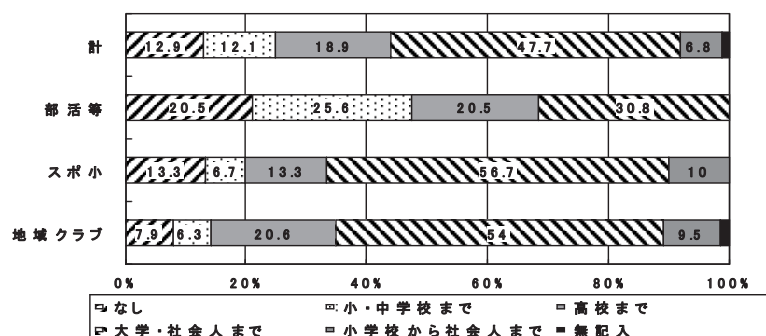
参加指導者の職業については、「学校のクラブ・

部活動」は「小学校教諭」36名(92.3%)が多く、これに対して「スポーツ少年団」は「小学校教諭」13名(43.3%)に次いで「会社員・公務員」9名(30.0%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」「小学校教諭」26名(41.3%)に次いで「会社員・公務員」22名(34.9%)と職業に幅がみられた。

3) 参加指導者の陸上競技の経験

陸上競技の経験について小学校か中学校、又はその両方で経験したものを「小・中学校まで」、「小・中学校まで」に加えて高校まで経験したものと及び高校のみで経験したものを「高校まで」、同様に大学か社会人で経験したものを「高校まで」、同様に大学か社会人で経験したものを「大学・社会人まで」と分け、「小学校から社会人まで」継続して実施したものを「小学校から社会人まで」とし、さらに経験したことのない「なし」の5区分に分けた。これを図1に示す。

「学校のクラブ・部活動」は「大学・社会人」12名(30.8%)、「小・中学校まで」10名(25.6%)、「なし」8名(20.5%)であった。これに対して「スポーツ少年団」は「大学・社会人まで」が17名(56.7%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は「大学・社会人まで」が34名(54.0%)と多かった。「スポーツ



P<0.05

図1 所属クラブ種類別参加指導者の競技歴

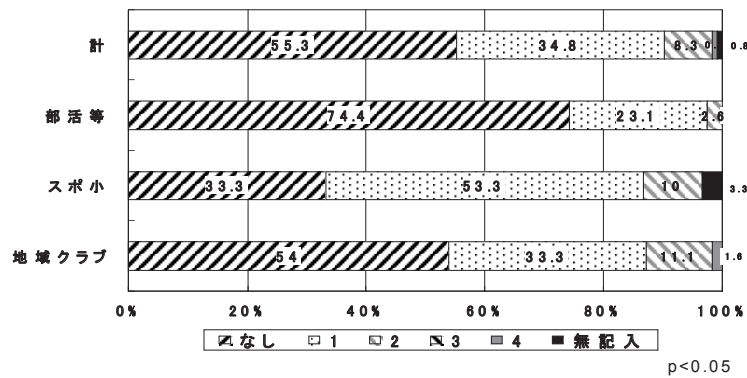


図2 所属クラブ種類別取得資格数 教員免許状を除く資格

少年団「地域スポーツクラブ(含む総合型)」には「小学校から社会人まで」継続して陸上競技を行ったものが10%ほどいた。

4) 参加指導者の取得資格

体協関係の資格、体育指導員、地域の資格、教員免許状、その他から複数回答可で回答を得た。全体で多いのは「教員免許状」69名(67.4%)であった。この教員免許状を除いた資格をいくつ持っているかを求めてみたものが、図2である。「学校のクラブ・部活動」は「なし」29名(74.4%)「1」9名(23.1%)が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「1」が16名(53.3%)、次いで「なし」10名(33.3%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は「なし」が34名(54.0%)、「1」21名(33.3%)であった。

2. クラブ種類別特性

1) 部員数と本大会参加者数

クラブ種類別に平均部員数と平均参加者数をみたものを表3に示す。部員数は各学年男女及び計に有意な差は認められなかった。これに対して参加者に関しては6年男女と参加者数に有意な差を認め、5年女子でも傾向を認めた。

すなわち参加者数では「学校のクラブ・部活動」は6年男子0.11±1.545、6年女子0.89±1.410合計1.97±2.091であった。これに対して「スポーツ少年団」は6年男子1.15±1.870、6年女子1.38±1.722、計3.45±3.325、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は6年男子2.59±2.438、6年女子2.13±2.384、計5.41±4.287であった。

2) 指導者数

クラブ種類別指導者数を図3に示す。「学校のクラブ・部活動」は「2-4名」28名(71.8%)が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「2-4名」11名(36.7%)、「5-7名」10名(33.3%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は「2-4名」が30.2名(30.2%)「5-7名」17名(27.0%)「11名以上」14名(22.2%)と、指導者数が有意に多かった。

3) 練習計画について

練習計画の有無と内容について図4に示す。全体でみると「年間計画がある」61名(46.2%)が多く、次いで「毎回の計画がある」39名(29.5%)が多かった。所属クラブ種類別に有意な差が認められたのは「計画は特にない」で「学校のクラブ・部活動」が12名(30.8%)と多いことであった。

表3 クラブ種類別部員数と参加者数

| 所属2 | | 部員数 | | | | 部員数計 | 参加数 | | | | 参加数計 |
|-----|----|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 5男 | 5女 | 6男 | 6女 | | 5男 | 5女 | 6男 | 6女 | |
| 部活 | x | 8.81 | 8.28 | 8.97 | 8.00 | 34.06 | 0.08 | 0.11 | 0.89 | 0.89 | 1.97 |
| 36 | sd | 7.336 | 6.623 | 6.487 | 5.077 | 21.444 | .280 | .319 | 1.545 | 1.410 | 2.091 |
| スポ小 | x | 6.27 | 5.88 | 5.96 | 7.19 | 25.31 | 0.27 | 0.65 | 1.15 | 1.38 | 3.46 |
| 26 | sd | 4.201 | 3.882 | 4.142 | 3.175 | 10.832 | 0.452 | 1.294 | 1.870 | 1.722 | 3.325 |
| 地域 | x | 8.52 | 8.49 | 9.18 | 10.15 | 36.34 | 0.30 | 0.39 | 2.59 | 2.13 | 5.41 |
| 61 | sd | 8.615 | 8.582 | 8.721 | 9.605 | 33.321 | 0.587 | 0.936 | 2.438 | 2.384 | 4.287 |
| 合計 | x | 8.13 | 7.88 | 8.44 | 8.89 | 33.34 | 0.23 | 0.37 | 1.79 | 1.61 | 3.99 |
| 123 | sd | 7.517 | 7.279 | 7.393 | 7.515 | 26.840 | 0.493 | 0.917 | 2.230 | 2.067 | 3.851 |

差の検定結果

** * **
**<0.01 *<0.05

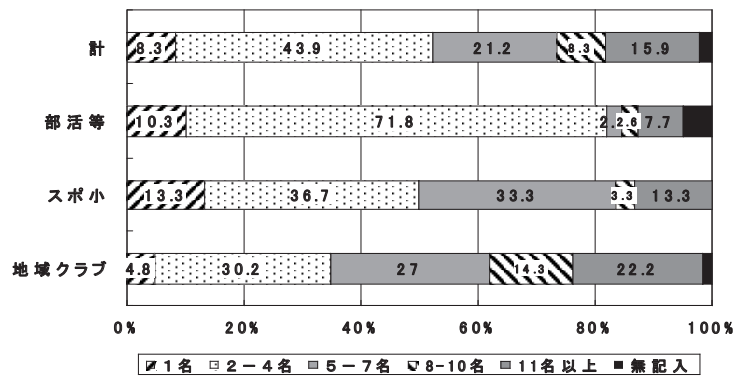


図3 所属クラブ種類別指導者数

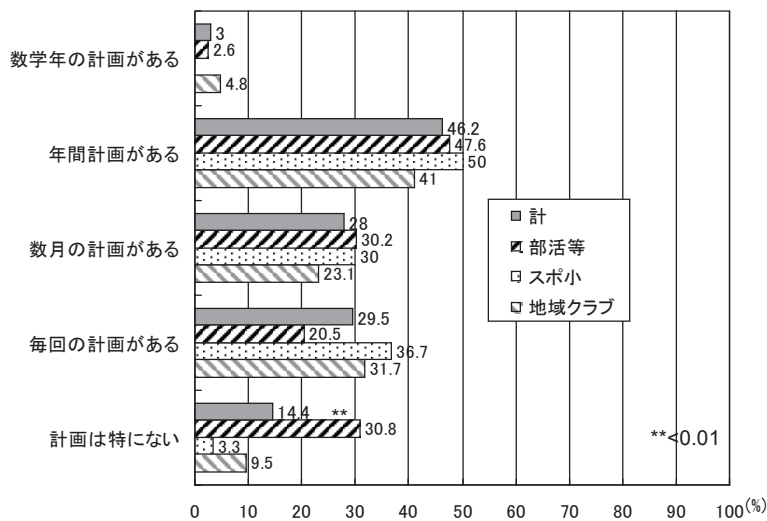


図4 所属クラブ種類別練習計画について（複数回答対象者132名を分母として）

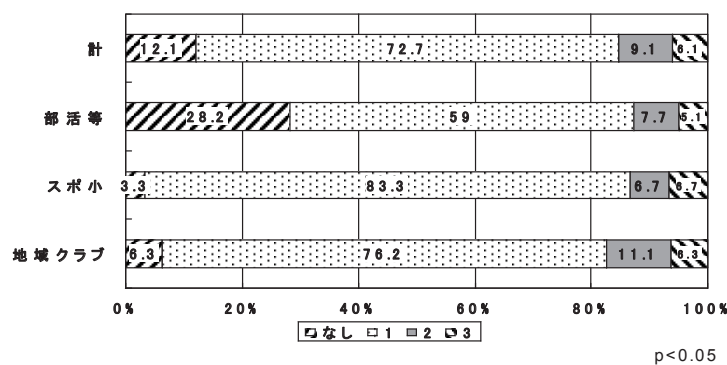


図5 所属クラブ種類別練習計画の種類数

これを所属クラブ別にいくつの計画を持っているかについて図5に示す。「学校のクラブ・部活動」は「1」23名(59.0%)、「なし」11名(28.2%)が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「1」25名(83.3%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は「1」が48名(76.2%)「2」7名(11.1%)と、計画数が有意に多かった。

4) 練習曜日について

練習曜日について図6に示す。全体で多いのは「土曜日」82名(62.1%)で、少ないのは「日曜日」32名(24.2%)であった。「学校のクラブ・部活動」は「火曜日」24名(61.5%)「木曜日」20名(51.3%)「金曜日」20名(51.37%)が有意に多く、これに対して「スポーツ少年団」は「土曜日」22名(73.3%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」も「土曜日」47名(74.6%)が有意に多かった。

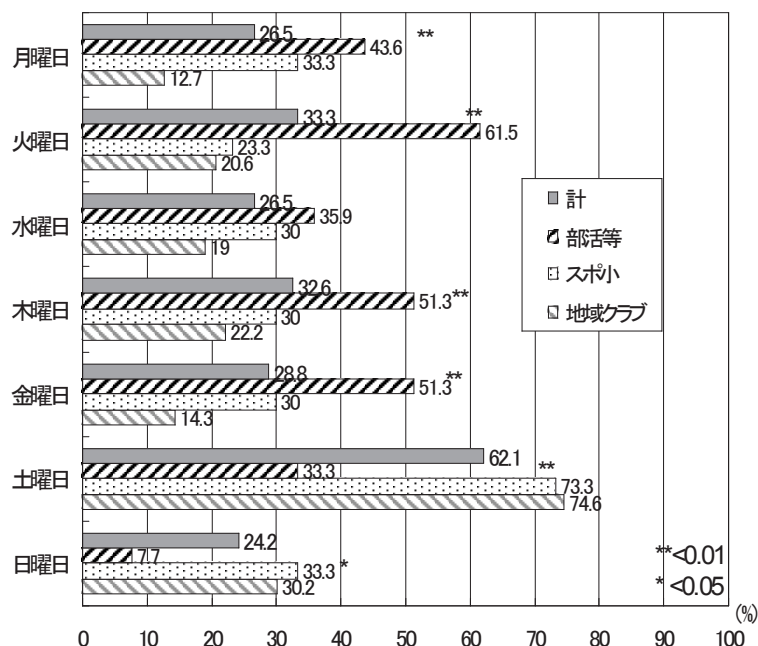


図6 所属クラブ種類別曜日別練習について（複数回答対象者 132 名を分母として）

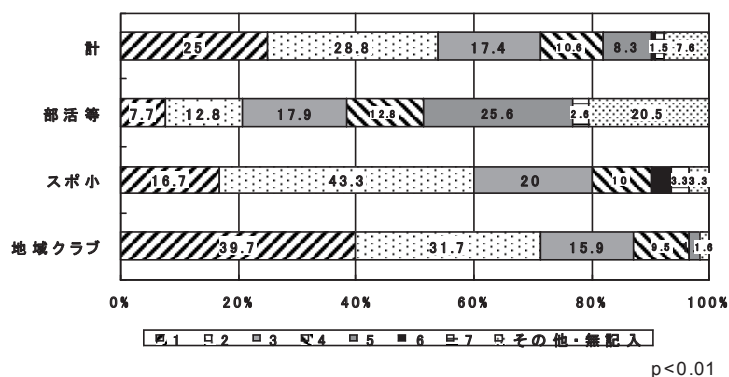


図7 所属クラブ種類別週当たり練習日数

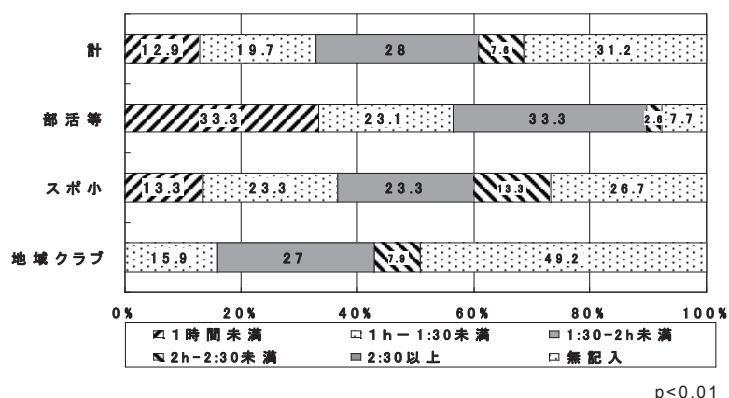
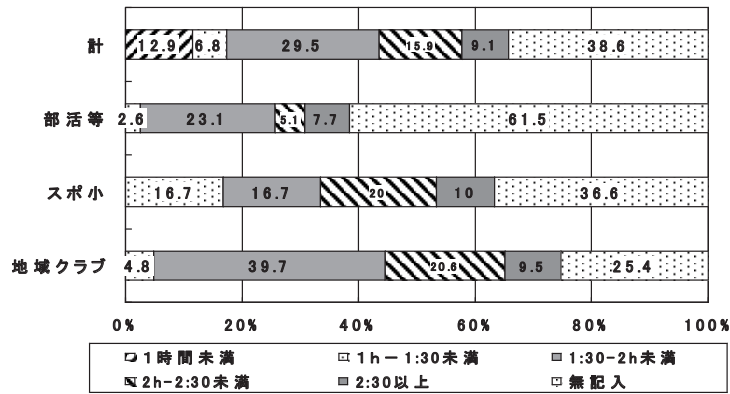


図8 所属クラブ種類別平日の練習時間

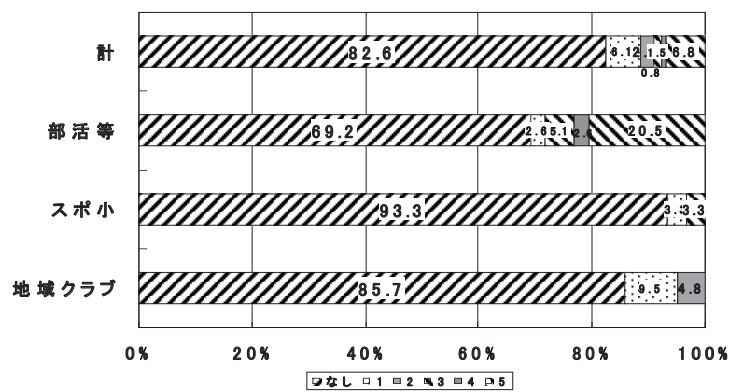
週当たり練習日数について図7に示す。「学校のクラブ・部活動」は「5日」10名(25.6%)が多く、次いで「その他・無記入」8名(20.5%)が多かった。この中には練習は不定期であるとか、この大会前だけ練習という者も含まれており、このようなば

らつきがあると推察する。これに対して「スポーツ少年団」は「2」13名(43.3%)「3」6名(20.0%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は「1」25名(39.7%)、「2」20名(31.7%)と有意な差が認められた。



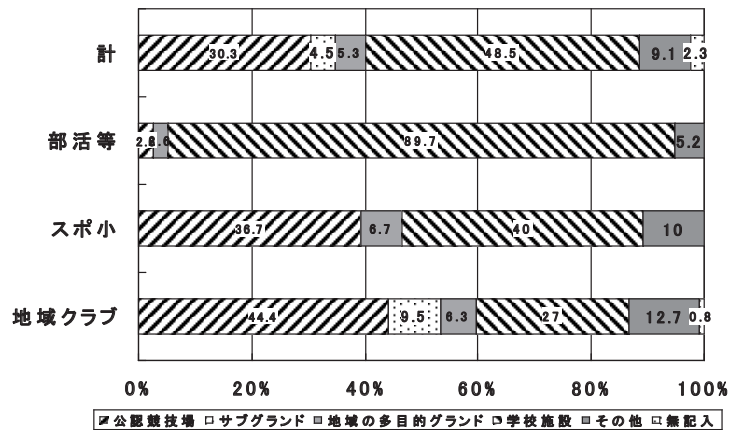
p<0.01

図9 所属クラブ種類別土・日の練習時間



p<0.01

図10 所属クラブ種類別朝練の日数



p<0.01

図11 所属クラブ種類別練習場所

5) 練習時間について

平日の練習時間について図8に示す。「学校のクラブ・部活動」は「1時間未満」と「1時間30分～2時間」が同率の13名(33.3%)が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「1時間～1時間30分」と「1時間30分～2時間」がこれも同率の7名(23.3%)であった。「地域スポーツクラブ(含

む総合型)」は「1時間30分～2時間」17名(27.0%)が有意に多かった。

土曜・日曜日の練習時間について図9に示す。「学校のクラブ・部活動」は「1時間30分～2時間未満」9名(23.1%)が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「2時間～2時間30分未満」が6名(20.0%)、続いて「1時間～1時間30分未満」と「1

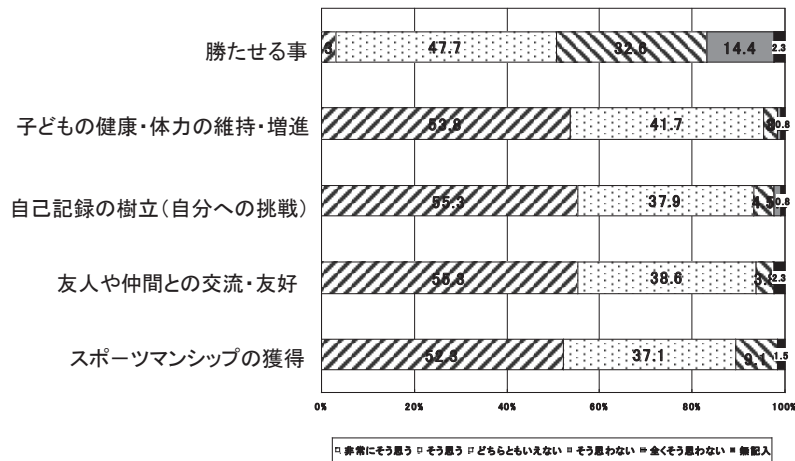


図 12 所属クラブの具体的目標の程度

時間 30 分～2 時間」が同率の 5 名 (16.7%) であった。「地域スポーツクラブ (含む総合型)」は「1 時間 30 分～2 時間」25 名 (39.7%) が有意に多かった。

6) 朝の練習について

週当たり朝の練習実施日数を図 10 に示す。実施していたのは全体の 17.40% であった。

「学校のクラブ・部活動」は「なし」が 27 名 (69.2%) であったが、「スポーツ少年団」の 28 名 (93.3%) 「地域スポーツクラブ (含む総合型)」の 54 名 (85.7%) と比較して有意に少なかった。「学校のクラブ・部活動」の中には週当たり練習日数「5 日」が 8 名 (20.5%) あった。

7) 練習の実施場所について

通常の練習場所について「公認陸上競技場」「競技場サブグラウンド」「地域の多目的グラウンド」「学校施設」「その他」の選択肢を示し、複数回答可で回答を求めた。その結果を図 11 に示す。「学校のクラブ・部活動」は「学校施設」35 名 (89.7%) が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「学校施設」12 名 (40.0%)、「公認競技場」11 名 (36.7%)、「地域スポーツクラブ (含む総合型)」は「公認競技場」28 名 (44.4%) 「サブグラウンド」6 名 (9.5%)、「学校施設」17 名 (27.0%) が多かった。「その他」は二つの施設を使用しているとの回答をまとめたものである。

8) 練習時のメニューについて

これには所属クラブ種類別に差が認められなかった。

練習のメニューについて (a) 「ブロック (種目別)」「特に分けていない」「両方の組み合わせ」と、(b) 「全員同じ」「学年別」「能力別」「個人別」「主に () と () の組み合わせ」の 2 種の選択肢を示し、回答を得た。表 4、5 に示す。

(a) は種目ブロック制を聞いたものだが、「ブロック別」にわけたり、「分けない」で行ったりの「両方の組み合わせ」が 50 名 (37.9%) と多かった。

(b) は学年、レベル別メニューの立て方をみたものだが、「全員同じ」26 名 (19.7%)、「学年別」25 名 (18.9%) であった。「組み合わせ」は 15 名 (11.4%) であった。

9) 小学校の段階で一番養いたい体力

これには所属クラブ種類別に差が認められなかった。小学校の段階で一番養いたい体力として「スピード」「全身持久力」「筋力」「巧緻性など調整力」を選択肢として示し、回答を得た。「巧緻性など調整力」を 96 名 (60.0%) が一番養いたいと回答した。ついで「スピード」26 名 (16.3%)、「全身持久力」23 名 (14.4%) となった。

3. クラブとしての具体的目標及び具体的指導の重要性の認識と指導の有無

1) クラブとしての具体的目標

これには所属クラブ種類別に差が認められなかった。所属クラブの目標について、「勝たせる事」「子どもの健康・体力の維持・増進」「自己記録の樹立(自分への挑戦)」「友人や仲間との交流・友好」「スポーツマンシップの獲得」を上げ、この具体的目標の程度を、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「全くそう思わない」の 5 段階の中から選択してもらうことで知ることとした。結果を図 12 に示す。

「勝たせる事」では「非常にそう思う」5 名 (3.1%)、「そう思う」73 名 (45.6%)、「どちらともいえない」52 名 (32.5%)、「そう思わない」25 名 (15.6%) であったが、他の項目は全て「非常にそう思う」が 50% を超えていた。

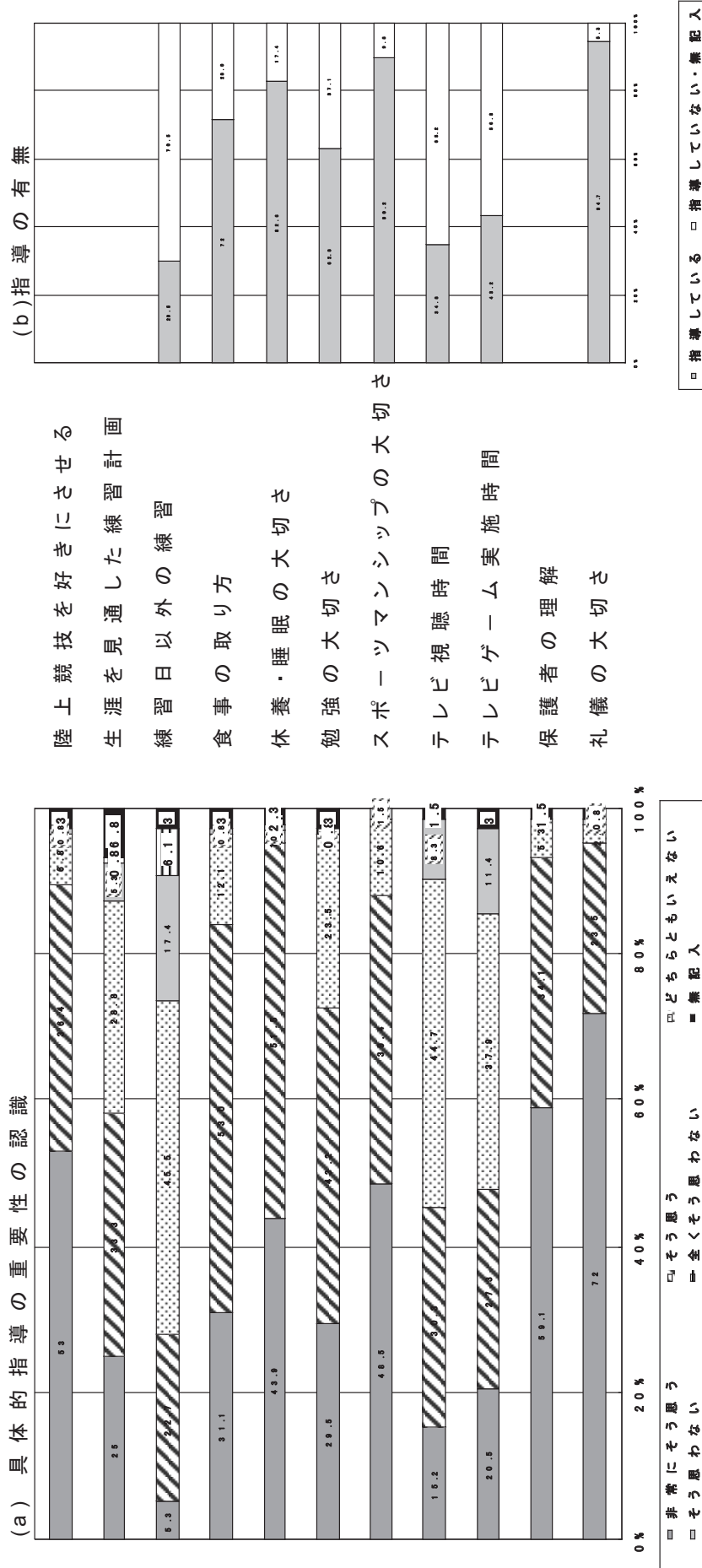


図1-3 具体的指導の重要性の認識と指導の有無

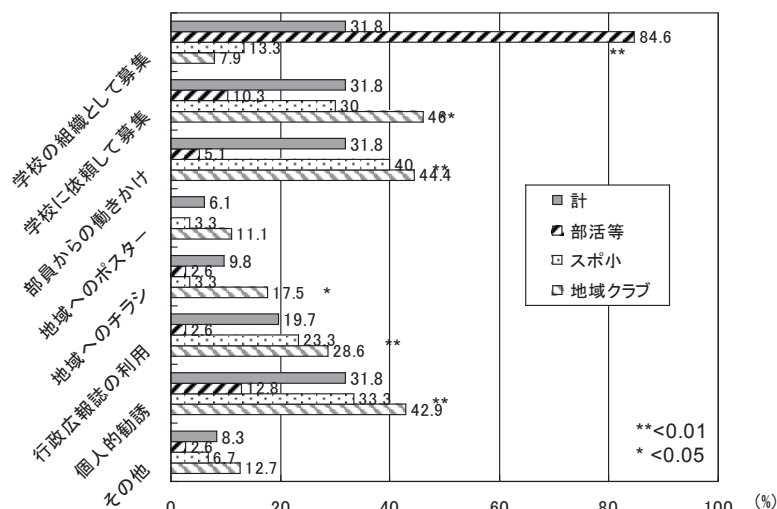


図 14 所属クラブ種類別部員募集について（複数回答対象者 132 名を分母として）

2) 具体的指導の重要性の認識と指導の有無

下に示す事柄についてどのような認識を持ち、実際に指導しているかを、目標と同様に 5 段階で回答を得た。また、それぞれについて指導しているかについて「はい」「いいえ」の二者択一の回答を得た。図 13 図はその結果である。

これは「テレビゲームの実施時間について指導することは大切である」の指導の有無で、「学校のクラブ・部活動」が多いという差が認められた他はなかった。

「陸上競技を好きにさせる事は大切である」は「非常にそう思う」87名(54.4%)、「そう思う」57名(35.6%)と重要性を認識していた。

「生涯を見通した練習計画を検討することは大切である」は「非常にそう思う」41名(25.6%)、「そう思う」53名(33.1%)と半数が重要性を認識していた。

「練習日以外にも練習をすることは大切である」は「非常にそう思う」8名(5.0%)、「そう思う」39名(24.4%)であった。先に見た練習日数を考えた場合、週当たり練習日にはばらつきがあったが、2日以内のクラブが50%を超えていたことを考えると少ないともいえる。この指導を行っていたのは50名(31.3%)であった。

「食事の取り方を指導することは大切である」「休養・睡眠の大切さを指導することは大切である」はそれぞれ「非常にそう思う」50名(31.3%)、73名(45.6%)、「そう思う」88名(55.0%)、81名(50.6%)と重要性を認識していた。指導も119(74.4%)、132名(82.5%)が実施していた。

「学校の予習・復習の大切さを指導することは大切である」は「非常にそう思う」45名(28.1%)「そ

う思う」74名(46.3%)とであった。指導は102名(63.8%)が実施していた。

「テレビの視聴時間について指導することは大切である」「テレビゲームの実施時間について指導することは大切である」はそれぞれ「非常にそう思う」22名(13.8%)、30名(18.8%)、「そう思う」52名(32.5%)、48名(30.0%)と重要性を認識していた者は50%に満たなかった。指導も54名(33.8%)、67名(41.9%)であった。

「スポーツマンシップの大切さを指導することは大切である」「挨拶などの礼儀について指導することは大切である」はそれぞれ「非常にそう思う」73名(45.6%)、113名(70.6%)、「そう思う」67名(41.9%)、40名(25.0%)と重要性を認識していた。指導も143名(89.4%)、150名(93.8%)が実施していた。

「クラブ運営について保護者の理解を得ることは大切である」は「非常にそう思う」95名(59.4%)、「そう思う」55名(34.4%)と重要性を認識していた。

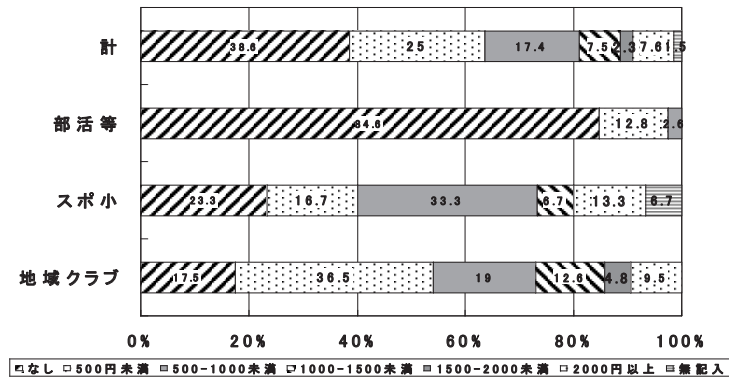
3. 部員募集と部費

1) 部員募集

所属クラブ種類別に部員募集の方法についてみたものを図 14 に示す。

「学校のクラブ・部活動」は「学校の組織として募集」33名(84.6%)が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「部員からの働きかけ」12名(40.0%)「個人的勧誘」10名(33.3%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」も「部員からの働きかけ」28名(44.4%)「個人的勧誘」27名(42.9%)が多かった。

2) 会費の徴収と地域や学校からの援助



p<0.01

図 15 所属クラブ種類別会費徴収について

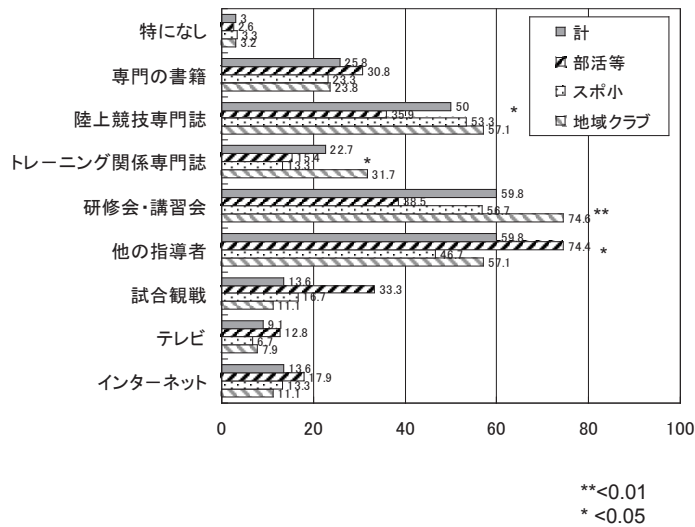


図 16 所属クラブ種類別指導に関する情報源について（複数回答対象者 132 名を分母として）

会費の徴収について月当たりの徴収金額について「なし」「500円未満」「500-1000円未満」「1000-1500円未満」「1000-1500円未満」「1500-2000円未満」「7. 2000円以上」の選択肢を示し、回答を得た結果を図 15 に示す。

「学校のクラブ・部活動」は「なし」33名(84.6%)が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「500-1000円未満」10名(33.3%)「なし」7名(23.3%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」も「500円未満」23名(36.5%)「500-1000円未満」12名(19.0%)が有意に多かった。

4. 指導者の指導に関する情報源

指導に関する情報をどこから得ているかについて「特になし」「専門の書籍」「陸上競技専門誌」「トレーニング関係専門誌」「研修会・講習会」「他の指導者」「試合観戦」「テレビ」「インターネット」「その他」の選択肢を示し、主な項目を上位3つまでを選択してもらった。その結果を図 16 に示す。

「学校のクラブ・部活動」は「他の指導者」29名(74.4%)が多かった。これに対して「スポーツ少年団」は「研修会・講習会」17名(56.7%)「陸上競技専門誌」16名(53.3%)、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」も「研修会・講習会」47名(74.6%)「陸上競技専門誌」36名(57.1%)「他の指導者」36名(57.1%)が多かった。

III. 考察

三種類に大別した小学生を対象としたクラブは、その創設趣意、活動の目的等に違いがある。

小学校のクラブ活動については、文部科学省(1999)が定める小学校学習指導要領4章特別活動に示されており「クラブ活動においては、学年や学級の所属を離れ、主として第4学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、共通の興味・関心を追求する活動を行うこと。」と教育課程の位置づけを持つものである。また学校教育の一環とし

ての部活動組織を持つ学校もある。各学校ではこのクラブ参加者や、授業、新スポーツテスト、校内大会で記録の良かった児童を地区の大会に参加させている。

二つめのスポーツ少年団は財団法人日本体育協会の報告書(2004)によれば日本体育協会によって、スポーツによる青少年の健全育成と生涯スポーツの芽を育てることを目的に作られたもので、小学生の他、中学生、高校生の加盟も認められている。財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団(2004)の資料によれば現在約60種目933,192名(2003)が加入しており、陸上競技加入団体は290、加入数は9473名で、これは60種目中14位の数値である。

三つめの地域スポーツクラブは、例えば都道府県、市区町村陸上競技連盟など、地域のいわゆるその種目の専門集団が創設するクラブ、地域住民や行政、民間団体、NPOが創設するクラブなどがあり、それぞれの創設の目的と指導等の意識には違いがある。

一方、地域を想定し、住民が自ら運営するクラブ育成のために文部科学省の補助金モデル事業と定めた構想に総合型地域スポーツクラブがある。ここには先の学校、スポーツ少年団を取り込んだの事業展開もあるが、本調査では「地域スポーツクラブ(含む総合型)」として分類し、検討することとした。

これまでみてきた結果にその特徴が出ている。しかし、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は地域によっては「スポーツ少年団」などを取り込んでいるためか、かなり「スポーツ少年団」と共通する結果も含まれている。

まず「学校のクラブ・部活動」の結果を纏めると、「i 学校体育、教科や特別活動の一環として行われており、中には本大会に出場機会がある者を選抜しているものも含まれていた。ii 指導者は教員であり、陸上競技の経験、資格を持つものは比較して少数であった。iii 指導計画の整備も少なく、陸上競技のトレーニング情報は他の指導者から聞くものが多かった。iii 主に平日学校の校庭で短時間、朝の練習も実施していた。」となる。

学習指導要領総則体育の精神にもあるが、クラブ活動、部活動を含む学校教育の中で「体育」の重要性は言うまでもない。沼里(2002)は「本校は、なぜ体育を重要視するのか」と題し、その効用に長欠、不登校児の解消、他教科の学習への転移、基本的生活習慣の改善、気になる子への対応の成果を上げている。学校の成員である子ども同志、教員がともに活動することは、児童の学校生活を充実させることになり、これを有効に活用しなければならない。板

橋(2002)は中体連事務局長の立場で部活動の活発化にはa 休日の活用を柔軟にすること、b 外部指導者の有効活用を提言している。このようなことで児童には平日にゆとりを持たせ、教員にはこの種目の専門知識の習得も可能となる。ただ渡邊(2004)がいうように教員の間で十分な情報交換を行い、あくまでも教員が責任を負うことのできる環境でなければならない。

次に「スポーツ少年団」、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」の結果を纏めると「i 勧誘は学校に依頼したり、部員の口コミ、あるいは個人的勧誘であった。ii 指導は集団的指導で教員以外もおり、陸上競技経験者が多かった。iii 資格を持つ者は「学校のクラブ・部活動」よりは有意に多いが十分とはいえない。iv トレーニング情報も専門誌、講習会などから得ていた。v トレーニング計画は「学校のクラブ・部活動」と比較して整備されていた。vi 練習は陸上競技場や地域のグラウンド、学校の校庭を使い、主に土曜日に実施され、週当たり日数は少ない。」となる。

さらに3種類別に差が認めれなかった指導目標、具体的指導の重要性認識の結果を纏めてみると「i 「勝たせること」は「非常にそう思う」「そう思う」が50%、「子どもの健康・体力の維持・増進」「自己記録の樹立」「友人や仲間との交流・有効」「スポーツマンシップの獲得」は「非常にそう思う」「そう思う」がおおよそ90%であった。ii 具体的指導の重要性認識では「陸上競技を好きにさせる」は「非常にそう思う」「そう思う」が90%であったが、「生涯を見通した練習計画」は60%を切った。」となる。

スポーツ少年団では認定員、認定育成員の養成を、日本体育協会では地域スポーツ指導員、競技力向上指導者、少年スポーツ指導者などの養成をしており、地方公共団体では社会体育指導員などの認定がある。それらの資格取得に関して「スポーツ少年団」で3割、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」で5割が資格を持っていなかった。落合(1999)は講習時間並びに費用、カリキュラムの内容、配置の問題など各指導者制度の問題点も多いと指摘しており、それが取得割合を低くしている原因といえる。また陸上競技の経験者といえども子どもに対する指導という点では、そのことを十分知った指導者が必要になる。中央教育審議会の(2002)子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)、でも述べられているが、前述した学校と域指導者者の関係とは反対の、地域指導者が小学校教員から児童の様子や指導の留意点などを学ぶような相互交流が必要となる。

さらに指導計画には人生のどこでその人の最高能力が発揮できるかを見通した計画が重要となる。そのためには中央教育審議会(2002)子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)、保健体育審議会(2000)スポーツ振興基本計画の在り方について—豊かなスポーツ環境を目指して—(答申)でも指摘しているように、日本陸上競技連盟は総力を挙げて、一貫指導システムの構築、すなわちレベル別、年齢別トレーニング基準を作成することが急務であり、それに添った各段階の指導者の育成が重要となる。その際、将来に向けた継続を可能にするようなトレーニングと、指導者の意識が重要である。

学校完全週5日制の見直しがいわれている。「ゆとり」は本来子ども達の1日の中にあるべきで、6日の授業を5日にし、授業時数を詰め込む現行学習指導要領には無理があったと考えている。今後学力低下問題から授業数の増加がいわれるが、子どもの体力、健康づくりに身体活動・スポーツ活動の確保が図られなければならない。完全5日制実施に当たって文部科学省(2000)「スポーツ振興基本計画」の中で学校と地域の連携をうたい、野々宮(2000)もすでに地域スポーツと学校の連携が重要との指摘をしている。しかし、大橋らがいうようにその後の実施の中で多くの成果とともに課題も多く存在している。「学校クラブ・部活動」「スポーツ少年団」「地域スポーツクラブ(含む総合型)」への複数加入を認める事などを含め、連携によって児童は選択の幅を広げ、いずれかで身体活動・スポーツ活動に参加できることになる。前述したように「学校」と「地域」が一つの型の組織の統合ではなく、それぞれが独立的な立場で、競争と協調によって連携することが望ましく、これらのことは地域の実態の応じて柔軟性のあるシステム作りによって可能となる。その意味でも色々なクラブからの参加がある本大会の持つ意味は大きいと考える。

V. まとめ

今回小学生が所属するクラブの指導者について所属するクラブの種類、「学校のクラブ・部活動」「スポーツ少年団」「地域スポーツクラブ(含む総合型)」がどのように運営されているかを調査分析した。

1)「学校のクラブ・部活動」は学校体育、教科や特別活動の一環として行われており、中には本大会に出場機会がある者を選抜しているものも含まれていた。従って指導者層は教員であり、陸上競技の経験、資格を持つものは比較して少数であった。陸上

競技のトレーニング情報は他の指導者から聞くものが多かった。主に平日学校の校庭で短時間、朝の練習も実施していた。

2)「スポーツ少年団」、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」は学校に依頼したり、部員の口コミ、あるいは個人的勧誘で部員を集めていた。指導は集団的指導で教員以外もおり、陸上競技経験者が多かった。資格を持つ者は「学校のクラブ・部活動」よりは有意に多いが十分とはいえない。トレーニング情報も専門誌、講習会などから得ていた。トレーニング計画は「学校のクラブ・部活動」と比較して整備されていた。練習は陸上競技場や地域のグラウンド、学校の校庭を使い、主に土曜日に実施され、週当たり日数は少ない。

3)クラブの目標には差が認められなかった。「勝たせること」は「非常にそう思う」「そう思う」が50%、「子どもの健康・体力の維持・増進」「自己記録の樹立」「友人や仲間との交流・有効」「スポーツマンシップの獲得」は「非常にそう思う」「そう思う」がおおよそ90%であった。

4)具体的指導の重要性認識にほとんど差が認められなかった。「陸上競技を好きにさせる」は「非常にそう思う」「そう思う」が90%であったが、「生涯を見通した練習計画」は60%を切った。

このように「学校のクラブ・部活動」と「スポーツ少年団」、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」には大きな違いがあった。

「学校」では学校教育の一環として本大会を利用して活動の幅を広げるということは重要なことである。「スポーツ少年団」、「地域スポーツクラブ(含む総合型)」ではより専門的な指導が期待できる。従ってこの3つがお互いに交流し、底辺の拡大と、基礎的な技術の付与が実施されることが望まれる。そのためには日本陸上競技連盟は総力を挙げて、レベル別、年齢別トレーニング基準を作成することが急務であり、それぞれの段階の指導者の育成が重要となる。

その際、将来に向けた継続を可能にするようなトレーニングと、指導者の意識が重要である。

参考文献

- 中央教育審議会(2002)子どもの体力向上のための総合的な方策について(答申)、文部科学省 東京
保健体育審議会(2000)スポーツ振興基本計画の在り方について—豊かなスポーツ環境を目指して

ー (答申) 文部科学省

板橋弘徳 (2002) 中体連事務局長として訴えたいこと
ー 一部活動指導者、学校管理者、行政に対して
ー、体育科教育 50(5), 44-47 大修館書店
東京

片瓜仲夫 原田伸宏 岡野 進 上島 実 日本陸
連普及委員会 (1997) 小学校における陸上競技
クラブの実態について, 陸上競技紀要, 10,
52-59

文部科学省 (2000) 「スポーツ振興基本計画」, 文
部科学省 東京

文部科学省 (1999) 小学校学習指導要領解説 特別
活動編, pp. 50-58 東洋館出版 東京

森川貞夫 (2000) これからの地域スポーツと社会
体育指導者資格制度, 体育の科学 50(3),
199-208 杏林書院 東京

野々宮 徹 (2000) 完全学校週5日制に向けた学校
と地域社会の望ましい連携の在り方, スポーツ
と健康 32(8), 7-10 第一法規出版 東京

沼里親一 (2002) 本校は、なぜ体育を重要視するの
か、体育科教育 50(5), 22-25

岡野 進 上島 実 服部利夫 (1995) 小学校陸上
競技指導者の状況ー第9回全国小学校陸上競技
大会・指導者のアンケート調査からー. 陸上競
技紀要, 8, 50-57

大橋美勝 米谷正造他 (2004) 総合型地域スポーツ
クラブー形成事例的考察ー, 不昧堂出版 東
京

落合 優 (1999) 社会体育指導者養成制度のこれま
でと、これから、スポーツと健康 31(2), 7-10
第一法規出版

渡邊 彰 (2004) 「運動部活動の実態に関する調
査研究」報告書について, 体育科教育 52(13),
75-77

財団法人日本陸上競技連盟普及委員会 (2002) 「平
成14年度普及委員会活動報告並びに調査研究
報告書」pp. 28-32 財団法人日本陸上競技連盟
普及委員会

財団法人日本体育協会 (2001) 21世紀の国民スポ
ーツ振興方策, pp. 5-6 財団法人日本体育協
会

財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団 (2004)
スポーツ少年団とは, pp. 39-40 財団法人日本
体育協会日本スポーツ少年団 東京

資料 1

【指導者用アンケート用紙】

第 20 回全国小学生陸上競技交流大会 (2004年)

指導者の皆様へ (お願い)

このアンケート調査は、本大会に出場する選手をご指導されている皆様を対象とし、日頃の指導活動についての意識と実態について、陸上競技の普及発展の観点から分析・検討を行い、今後のご指導の一助となる資料を作成することを期して実施するものです。回答は、統計的に処理され、上述の目的以外に利用することはありません。趣旨に賛同できる方はご協力のほどお願い致します。

財) 日本陸上競技連盟・普及委員会・研究調査部 2004年 7月24日 (土)

1. 所属 () 都道府県
2. 今回参加のあなたの立場 1 監督 2 コーチ 3 その他 ()
3. あなたは小学生を対象とした所属クラブで、日常的に指導をされていますか
1 はい 2 いいえ 3 その他 ()
3. 性別 1 男 2 女
4. 年齢 1 20代 2 30代 3 40代 4 50代 5 60代以上
5. 職業 1 教員(1-1 小学校 1-2 中学校 1-3 高等学校 1-4その他) 2 農林・漁業など
3 会社員・公務員など 4 自営業 5 自由業 6 専業主婦 7 無職 8 その他 ()
6. 陸上競技指導経験年数:
1 5年未満 2 5年～10年未満 3 10年～20年未満 4 20年～30年未満 5 30年以上
7. 陸上競技歴(いくつでも): 1 ない 2 小学校 2 中学校 3 高校 4 大学 5 社会人・地域
8. 資格(いくつでも)
1 ない 2 体協 () 3 体育指導員 4 地域の資格 () 5 教員免許 6 その他 ()
9. 所属クラブ
1 学校のクラブ・部活動 2 スポーツ少年団 3 地域スポーツクラブ(含む総合型) 4 その他 ()
10. あなたの所属するところの指導者数: 1 1名 2 2～4名 3 5～7名 4 8～10名 5 11名以上
11. 指導者間の話し合い: 1 よく行う 2 時々行う 3 まれに行う 4 行わない
12. トレーニング計画(いくつでも)
1 数学年(数年)に渡った計画がある 2 年間計画がある 3 数ヶ月の計画がある
4 毎回の計画がある 5 特に計画はない
13. 部員募集(いくつでも)
1 学校の組織として募集 2 学校に依頼して募集 3 部員からの働きかけ 4 地域へのポスター掲示など 5
地域の家庭へのチラシなど 6 行政広報誌の利用 7 個人的勧誘 8 その他 ()
14. 通常の練習日(朝練を除く)(いくつでも)
1 月曜日 2 火曜日 3 水曜日 4 木曜日 5 金曜日 6 土曜日 7 日曜日
15. 通常の練習時間 平日 1 1時間未満 2 1時間以上1時間30分未満 3 1時間30分以上2時間未満
4 2時間以上2時間30分未満 5 2時間30分以上
土・休日 1 1時間未満 2 1時間以上1時間30分未満 3 1時間30分以上2時間未満
4 2時間以上2時間30分未満 5 2時間30分以上
16. 通常の朝の練習日(いくつでも)
1 月曜日 2 火曜日 3 水曜日 4 木曜日 5 金曜日 6 土曜日 7 日曜日
17. 練習メニューについて(a) 1 ブロック(種目)別 2 特に分けていない 3 両方の組み合わせ
(b) 1 全員同じ 2 学年別 3 能力別 4 個人別
5 主に()と()の組み合わせ
18. 小学校の段階で一番養いたい体力はなんですか
1. スピード 2. 全身持久力 3. 筋力 4. 巧緻性など調整力
19. 通常の練習場所 1. 公認陸上競技場 2. 競技場サブグラウンド 3. 地域の多目的グラウンド
4. 学校施設 5. その他 ()
20. 会費(月当たり部員からの徴収) 1. なし 2. 500円未満 3. 500-1000円未満 4. 1000-1500円未満

5. 1000-1500円未満 6. 1500-2000円未満 7. 2000円以上

20-2 地域・学校からの援助等がありますか

1. ない 2. ある (年額いくらぐらいですか)

21. 通常の練習で一人の子どもが多種目の練習を行っていますか。

1 行っていない 2 行うときもある 3 行っている

21-2 上で2、3とお答えの方にお聞きします。その種目はなんですか

() () () ()
() () () ()

22. 所属クラブの目標の程度についてお答えください。各項目に該当する数字を1つだけ選んで○を付けてください。

5=非常にそう思う 4=そう思う 3=どちらとも言えない 2=そう思わない 1=全くそう思わない

- 1) 勝たせる事 5 - 4 - 3 - 2 - 1
2) 子どもの健康・体力の維持・増進 5 - 4 - 3 - 2 - 1
3) 自己記録の樹立 (自分への挑戦) 5 - 4 - 3 - 2 - 1
4) 友人や仲間との交流・友好 5 - 4 - 3 - 2 - 1
5) スポーツマンシップの獲得 5 - 4 - 3 - 2 - 1

23. 次の事柄についてどのように思い、どのように指導されていますか。該当する数字を1つだけ選んで○を付けてください。また、()内には具体的な記述をお願いいたします。

5=非常にそう思う 4=そう思う 3=どちらとも言えない 2=そう思わない 1=全くそう思わない

- 1) 陸上競技を好きにさせる事は大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
どのような工夫をされていますか (_____)

- 2) 生涯を見通した練習計画を検討することは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
どのような配慮をされていますか (_____)

- 3) 練習日以外にも練習をすることは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
練習日以外にも練習をすることを指導していますか 1. はい 2. いいえ

- 4) 食事の取り方を指導することは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
食事の大切さを指導していますか 1. はい 2. いいえ

- 5) 休養・睡眠の大切さを指導することは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
休養・睡眠の大切さを指導していますか 1. はい 2. いいえ

- 6) 学校の予習・復習の大切さを指導することは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
学校の予習・復習の大切さを指導していますか 1. はい 2. いいえ

- 7) スポーツマンシップの大切さを指導することは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
スポーツマンシップの大切さを指導していますか 1. はい 2. いいえ

- 8) テレビの視聴時間について指導することは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
テレビの視聴時間について指導していますか 1. はい 2. いいえ

- 9) テレビゲームの実施時間について指導することは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
テレビゲームの実施時間について指導していますか 1. はい 2. いいえ

- 10) クラブ運営について保護者の理解を得ることは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
どのような工夫をされていますか (_____)

- 11) 挨拶などの礼儀について指導することは大切である 5 - 4 - 3 - 2 - 1
挨拶などの礼儀について指導していますか 1. はい 2. いいえ

24. あなたの所属チームの部員数は何名ですか。 学年・男女別にご記入下さい

5年生……男()名、女()名 6年生……男()名、女()名

その他……(例. 中学1年男10名)

25. あなたの所属チームからの今回の参加者 (児童) は何名ですか 学年・男女別にご記入下さい

5年生……男()名、女()名 6年生……男()名、女()名

26. 今後、研修会で取り上げて欲しい内容について、該当する数字を1つだけ選んで○を付けてください。
また、下記の項目以外に取り上げて欲しい内容がありましたら、()内には具体的な記述をお願いいたします。

5=非常にそう思う 4=そう思う 3=どちらとも言えない 2=そう思わない 1=全くそう思わない

- 1) 子どもの発育発達や体力に関する事..... 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 2) 食事や栄養の摂取方法..... 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 3) 食事の内容やタイミング 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 4) 水分補給や栄養補助食品 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 5) マッサージやアイシングの方法 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 6) ウォーミング・アップの内容と方法 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 7) 障害と救急処置 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 8) 暑さ対策 (夏期のトレーニングや熱中症予防など) 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 9) 短距離走の基本技術と練習方法..... 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 10) ハードル走の基本技術と練習方法 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 11) 走高跳の基本技術と練習方法 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 12) 走幅跳の基本技術と練習方法 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 13) リレー競走の基本技術と練習方法 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 14) 身体的コンディショニングの方法..... 5 - 4 - 3 - 2 - 1
- 15) 心理的コンディショニングの方法..... 5 - 4 - 3 - 2 - 1

(具体的に書きください。 _____

_____)

27. こどもの指導に関する主な情報源は主にどこから得ていますか。上位3つを上げて下さい。

- ①特になし ②専門の書籍 ③陸上競技専門誌 ④トレーニング関係専門誌 ⑤研修会・講習会
- ⑥他の指導者 ⑦試合観戦 ⑧テレビ ⑨インターネット
- ⑩その他 (_____ , _____ , _____)

28. 本大会の種目・競技運営など大会全般についてお気付きの点・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

- 競技運営 _____

- 実技研修会(7/23)・研修会(7/24) _____

- 開会・閉会式 _____

- 監督会議 _____

- 食事関係 _____

- その他 _____

協力ありがとうございました。